

追悼； 伴英幸さん 2024年6月10日永眠 72歳

原子力資料情報室共同代表



“頭をあげて”前に進むために

ノーマ原発公害市民会議  
2025年1月26日  
金平茂紀

追悼； 伴英幸さん 2024年6月10日永眠 72歳



## 日本人と原子力の歴史



- マンハッタン計画 → 広島・長崎への原爆投下
- 第五福竜丸事件(1954)
- Atoms for Peace(アイゼンハワー国連演説)
- 日本への原子力導入(読売・日テレの役割)
- 何度も日本で起こってきた強い地震
- 隠ぺいされてきた原発重大事故
- スリーマイル事故(1979)
- チェルノブイリ事故(1986)
- 東海村JCO臨界事故(1999)
- 福島第一原発炉心溶融事故(2011)
- 能登半島地震



# 今日のお話の大前提

○国民の司法に対する信頼が大きく揺らいでいる



# “公共”概念の溶融

○ 利己 > 利他  
公務員 government employee > public servant  
民営化(民間活力の導入) > 社会的共通資本の浸食

○ 「原発」(原子力発電)は、電力(社会的共通資本)を供給するための一つの方法にすぎない。

しかし

「原発」は今や**社会的共通資本の維持と相反する存在**になったのではないか。



# “公共”概念の溶融

<司法における“公共”の溶融>

@2022/6/17 最高裁判決 1F事故で国に賠償責任なし  
最高裁判事と巨大法律事務所の癒着

後藤秀典氏の取材成果

元最高裁判事・千葉勝美弁護士の「意見書」  
草野耕一 最高裁第二小法廷判事の経歴  
菅野博之 最高裁第二小法廷判事の経歴

@彼らを突き動かしている動機は何か？  
それは“公共”ですか？



# “公共”概念の溶融

最高裁第二小法廷

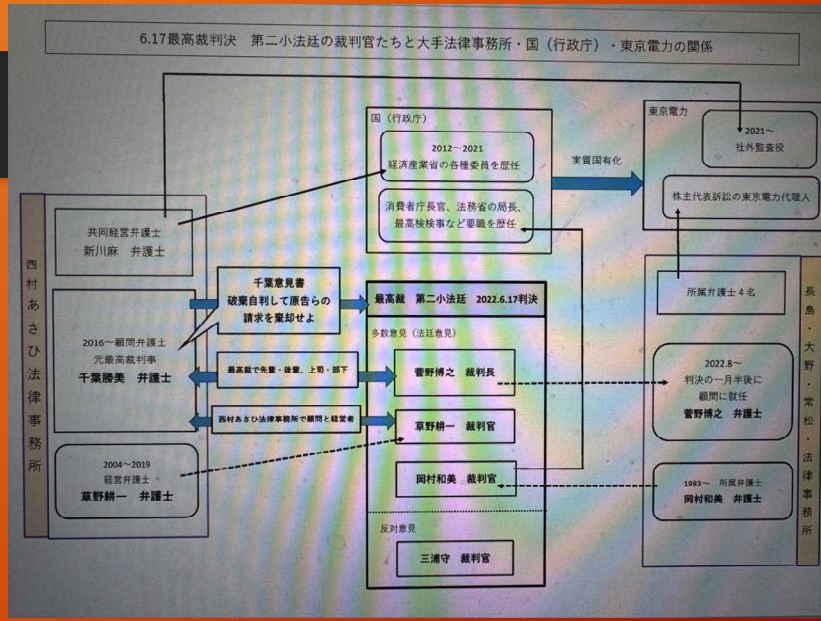
菅野博之 裁判官出身

草野耕一 弁護士出身

岡村和美 検察・法務官僚出身

三浦守(少数意見) 検察出身





# “公共”概念の溶融

## <司法における“公共”の溶融>

- @巨大弁護士事務所はなぜ最高裁判事と「癒着」するのか？  
**弁護士事務所の“利益の巨大化”**
  - @樋口英明元判事 井戸謙一元判事
  - @下級審の判事たちは“上”をみている
  - @那覇地裁のケース 福渡裕貴裁判長(現・東京高裁民事21部) 辺野古訴訟の原告側意見書を「事前検閲」
  - @大川原化工機事件で、保釈申請ごとごとく却下
  - @鹿児島県警の内部告発事件での裁判所の対応
- 司法＝行政の追認機関？**



# “公共”概念の溶融

## <原発最大限活用まっしぐら>

- @今も存続する原子カマラ
- @「エネルギー基本計画」における原発  
 「原子力依存度を可能な限り低減する」との文言削除  
 2040年度の電源構成に占める原発の割合「2割」に  
 原発の建て替えや新規増設を認める
- @20世紀型の成長神話にしがみつくと。無謬神話への固執



# “公共”概念の溶融

## <アカデミズムにおける“公共”の溶融>

- @すべては研究費のため  
 研究よりも富の追求 大学＝独立行政法人化
- @軍事が露骨にアカデミズムをけん引 (池内了氏の報告による)  
 防衛イノベーション技術研究所  
 防衛技術指針(民生用/軍用)  
 国際卓越研究大学(ファンド10兆円)  
 福島イノベーション・コースト構想
- @日本学術会議の「独立法人化」
- @学会間、学会内での論争の欠如
- @学問研究のコアに“公共”概念はまだ生き残っていると信じたい。



# “公共”概念の溶融

## ＜アカデミズムにおける“公共”の溶融＞

@福島国際研究教育機構 (F-Rei)

福島・イノベーション・コースト構想

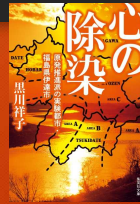
「福島に“ハンフォード”を」 2013年に視察

「復興」が軍事研究に利用されている **福島版ショック・ドクトリン**

学位の保証 膨大な研究資金

若者の動員 **「心の除染」ぐるプロジェクト**

**福島・浜通りの住民のことを  
本当に考えているのか？**



「真」はロボット・ドローンの貯蔵場所



# “公共”概念の溶融

## ＜マスメディアにおける“公共”の溶融＞

@一過性 場当たり主義 つまみ食い 専門記者の不在

@発表報道 ⇔ 調査報道

@組織の利益の最大化 スポンサーへの“忖度”

@個人と組織（利己と利他）

@いわゆる“御用記者”の存在

風評加害論

権威主義 UNSCEAR/IAEAIに盲従

@無謬神話 「誤報」はわが社にあってはならない。

朝日新聞の吉田調書事件の禍根



# “公共”概念の溶融

## ＜スタイルと流儀＞

@画期的な“市民科学者”という考え方

**“公共”をとり戻す生き方**

誰がどこからとり戻すのか？ 市民が主体であるべき

@高木仁三郎のみた「公のなさ」

技術は本来、公共的なものだ

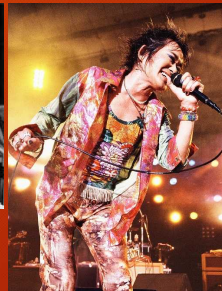
@スタイルの重要性

非暴力直接行動

文化的アクティビズム

忌野清志郎 坂本龍一 中村敦夫

「魅力」のない闘いに人々はついていけない



## 具体的な提言です。

- 若い人たちと共に進もう
- 魅力をバカにしない
- 私たちは間違える、**失敗する** → やり直せる
- ゆるやかな**連帯**を  
小異を捨てられず、  
大同につけず。
- ユーモア**の精神





ご清聴、ありがとうございました。